

# 令和8年度 輪之内町立輪之内中学校 研究構想

《学校の教育目標》

ひとりだちのできる生徒

～自ら考え、よりよく判断して、主体的に行動できる生徒～

## 【目指す教職員の姿】

- ◎生徒にとって魅力ある教師
- ・教科等における人権教育を確実に実践する
  - ・「できた」「わかった」といった生徒に充実感を感じさせる授業づくりの工夫
  - ・ICTを活用した授業モデルの構築などについて連携しながら考え、互いに学び合える職員集団

## 【目指す学校像】

- 「今日も楽しかった。また明日も来たい」と思える学校
- ・自己を見つめる力と思いやり、感謝の心の育成
  - ・基礎的、基本的な知識・技能、活用力、自ら学ぶ意欲の向上
  - ・所属感、望ましい人間関係、自主的、実践的な態度の醸成

## 【願う生徒の姿】

- ◎自分で考え 自分が決めて 自分から行動する
- ・だれとでも挨拶を交わし、思いやりのある言動をとる
  - ・人の話を自分の考えをもちながら聞き、言葉等で伝える
  - ・意見の違いやいじめ等の問題について仲間と話し合い、合意形成を図りながら解決に向けて行動できる

## 【研究主題】

自らの学びを調整し、  
自己の成長を実感できる生徒の育成

## 【研究仮説】

単元のゴールを明確にした指導計画を作成し、学習過程や評価の仕方を工夫すれば、生徒は自己の学習状況を把握しながら学びを調整し、自己の成長を実感することができる。

### 【研究内容 1】

#### I 単元のゴールを明確にした指導計画の作成

- ①単元で身に付ける資質・能力を生徒と共有
- ②目指す生徒の具体的な姿を事前に明確化
- ③単元を「導入→習得→活用→振り返り」で構造化
- ④単元1枚シートによる見通しの共有

### 【研究内容 2】

#### II 学びを広め、深めるための協働学習の工夫

- ①個人追究の充実
  - ・自己の考えの形成を行う
- ②学び方の自己選択
  - ・個人/ペア/グループ選択
  - ・自己選択による学習
  - ・仲間の意見を聞き、自分の意見を吟味する。

### 【研究内容 3】

#### III 学びを実感できる評価の工夫

- ①適切な実態把握
  - ・生徒一人ひとりの実態を適切に把握し、個に応じた支援を行う。
- ②評価の工夫
  - ・単元1枚シートを活用した学びの確認

## 【ICT・生成 AI の効果的活用】

- ① 思考の可視化
- ② 多面的視点の提示
- ③ 振り返り支援
- ④ 個別最適な課題生成

※活用は思考支援を目的とし、最終判断は必ず生徒自身が行う。